

読書活動だより.62

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246

「内なる図書館」づくりを支援

静岡県読書推進運動協議会副会長・静岡県立中央図書館長
谷野 純 夫

私たちの身体は、この世に生まれてからずっと食物摂取により維持されます。毎日、栄養バランスの取れた食事をする事で、健康な体を保つことができるわけです。新陳代謝により、肉体は常に更新されていきますから、今の私の身体は、これまで摂取してきた食物の一部からなると言えるでしょう。英語で言うところの“I am a part of everything that I have eaten.”ということになります。

では、精神的にはどうかというと、第26代米国大統領のセオドア・ルーズベルトが述べた次の有名な言葉があります。“I am a part of everything that I have read.”（私はこれまで読んだすべての読書（経験）の一部である。）要するに、読んだ本の一冊一冊が取り込まれて、血となり肉となり、その人の精神（人格）を作り上げるということなのでしょう。身体だけでなく心にもパンが必要というわけです。

読んだ本の蓄積は、心の中の蔵書となり、自分自身の「内なる図書館」を形成します。この「内なる図書館」は、世界にたった一つの自分だけのものです。自分の知性、感性、

徳性、そして人間性を支えるレファレンサー（reference librarian）となります。だとすれば、読む本を慎重に選ぶに越したことはないでしょう。食事指導をしてくれる栄養士が健康維持に欠かせないのと同様に、本の読み方や本の選び方を支援してくれる人や組織の重要性がそこにあります。

静岡県読書推進運動協議会は、直接的にあるいは間接的に皆さんの「内なる図書館」づくりを支援しています。私たちは、「読書」をその周辺の活動も含めて「読書すること」すなわち「出来事」として捉え、本そのものの意味や価値を越えて、その本を取り巻く文化活動にまで高めて行きたいと考えています。

具体的には、優良読書グループの賞揚、推薦図書を選定、図書館大会や講演会の開催など皆さんと共に参加型の読書推進活動を行っています。「内なる図書館」は、一人ひとりの心の中にありますが、「内なる図書館」づくりは、本と人、人と人が繋がることで広がっていきます。これからも「読書県しずおか」づくりに皆さんと共に取り組んでまいります。

《内容紹介（もくじ）》

- ◎巻頭言「内なる図書館」づくりを支援
（静岡県読書推進運動協議会副会長 谷野純夫）…… 1
- ◎静岡県図書館大会・読書会分科会報告 …… 2
- ◎平成23年度 優良読書グループ紹介
- ★(社)読書推進運動協議会長賞(全国表彰)
パンの笛 …… 2
- ★静岡県読書推進運動協議会長賞(県表彰)
ひろみ文庫 …… 3

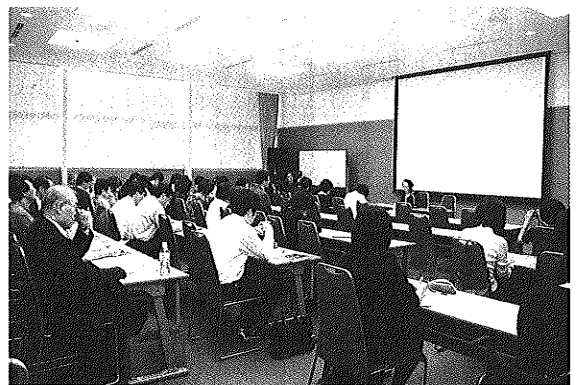
- きぶねおはなしの森 …… 3
- しず里おはなしの会 …… 3
- 音訳ボランティア「サークル声」 …… 3
- ふくちゃんの会 …… 3
- 火ようおはなし会 …… 3
- ◎静岡県読書推進運動協議会講演会報告 …… 4
- ◎静岡県子ども読書フェスティバル報告 …… 4
- ◎推薦図書 …… 4

静岡県図書館大会・読書会分科会報告

平成23年10月24日(月)に図書館大会が開催されました。第5分科会は、「すいせんの里読書会」の小杉雅子さんと静岡大学人文学部客員教授・東海大学短期大学部経営情報学科非常勤講師の平野雅彦さんをお迎えし「魅力的な読書会」について考えました。

小杉雅子さんは日頃のグループの活動の様子や読書会の醍醐味等をお話してくださいました。

講師の平野さんは、「読書会のススメ ～「読む」は呼ぶ～」と題して豊かな発想で読書会の仕方を提案してくださいました。平野さんは「本は手に持たないと読むことができない。要は本を手にするきっかけをどうつくるかである」と言われ、その工夫を凝らした大学の研究室の楽しい様子を紹介してくださいました。例えば置いてある本を手にしなれば座ることができないソファ、冷蔵庫を開けると梶井基次郎の『檸檬』が手前に置かれている等々。読書会については、具体的に実践事例を挙げていただきました。一つは、「あざれあ」で行った「～本を楽しむ～ 読書会のススメ」の事例。調理室、図書室、茶室と場所を変えて行った3回の読書会は、場の力を借りることによって読書会の中味も変わってくるという、自由な読書会のあり方を紹介してくださいました。もう一つは、「リーディング・カフェで待ち合わせ」という新しい形の読書会。挑戦した静岡大学人文学部・言語文化科の宇田さんと秋枝さんは、文学で他人とつながり、声に出して読むことで気持ちが伝わると、その感動を話しました。柔軟な発想で臨めば、読書会は、もっと魅力的なものになっていくのではないかと励まされる提案でした。大学生の参加もあり、明るく、楽しい時間を共有することができた分科会でした。



平成23年度 優良読書グループ紹介

(社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【パンの笛(富士市)】

パン(bread)で作った笛ではありません。「たのしい川べ」ーケネス・グレーアム作ーのパンの神様(牧羊神)が吹く葦(あし)の笛、この笛の音色は心に残るとても美しいものでした。怖い・不思議・美しい・面白い・悲しいことなど、本の中に登場するモグラやネズミに、パンの神様が与えた“感動”という贈り物に、読み聞かせの活動を通して、私たちも出会いたい。笛の音色のような“おはなし”をしていきたいと願い、『パンの笛』と名付けました。風にそよぐ葦、弱くても折れない、足の会、予算が無くても足でカバーするなど、総てを含んだ欲張りな名前なのです。機会があればぜひ、パンの笛(パンフルート)の澄んだ音色も聞いてみてください。昭和52年に会の前身「中丸文庫」として活動を始め、昭和61年4月に名称を「パンの笛」と改め、パンの笛としての活動を始めて、今年で26年になります。直接本を感じてもらう為に本を手作りの紙芝居やペープサート等にして、年齢にあったお話を子どもたちに届けています。主な活動の内容として、未就園児のお楽しみ会(月1回)、田子浦幼稚園・浜幼稚園・浜保育園でのお楽しみ会(年1～2回)、田子浦小学校・田子浦中学校での朝の読み聞かせ(毎週1回)、田子浦まちづくりセンターでの「七夕まつり」や「クリスマス会」など、静岡県富士市田子浦地区を中心に本の魅力を伝える為に活動をしています。これからもたくさん子ども達が本を大好きになってくれるようお願いしながら、読み聞かせの活動を続けていきたいと思ひます。

(代表 船倉 和江)



静岡県読書推進運動協議会長表彰（県表彰）

【ひろみ文庫（富士市）】

ひろみ文庫は、今年32周年を迎えました。地域でかわいがっていただきながら、小学校・中学校での読みかせ、児童館での春と夏のおたのしみ会・クリスマス会・新春の会、まちづくりセンターではいきいき子育て親子クリスマス会、通学合宿ではパジャマストーリーテリングをさせていただいています。

小学校の読みかせは毎週でクラス数も多いので、PTAや地域の方から読みかせ協力員を募り、いっしょにワイワイと活動し、ひろみ文庫の仲間になっていただくための窓口にもなっています。

今年は、影絵製作にも取り組んでいます。みなさま、ご期待を。（代表 山田千津子）



【きぶねおはなしの森（富士宮市）】

おはなしの森は、富士宮市立貴船小学校で読み聞かせをしているグループです。平成元年に結成、会員は、子どもが貴船小に通うお母さんとそのOBで構成され、現在28名。1・2年生には月に一度、3年生以上には年間に6回絵本の読み聞かせやおはなしを語っています。

子ども達は毎月のおはなしの森をとっても楽しみにしています。子供達に良い本を届けたい、いろんな本に親しんでほしいという思い、絵本やおはなしの世界を分かち合う喜びに支えられて活動しています。読み慣れたつもりの絵本でも、子ども達に読んであげるといつも新しい発見があります。今後もそんな発見を大切に、『継続は力』を合言葉に活動を行きたいと思っています。

（代表 小野田 真弓）



【しず里おはなしの会（静岡）】

一いにしえの倭文機帯を結び垂れ

誰れとふ人ぞ君にはまさじー 万葉集 2628

賤機地は古くは万葉集にも出てくる「しずはた織り」で知られる織物の里であった。そこに北部図書館ができるということで、未来を生きる子どもたちの縦糸と、健やかな成長を願う家族や地域社会の人達との横糸が織りなすように、幾分のお力添えができればと「しず里おはなしの会」が歩み出して足かけ10年になります。

私達は、図書館で毎月第1第3の土曜日に集まって研究し合い、活動は来館の皆さまには勿論、幼稚園、学校やお寺などを訪ねて子どもたちに本を読み、特製の紙芝居やパネルシアターで演じながら「本って面白いね」と語りかけたり、問いかけに答えたりと子どもたちと楽しみながら、会員15名で頑張っています。（代表 小泉 啓子）



【音訳ボランティア「サークル声」（掛川市）】

私達は、市から発行される広報や刊行物を音訳して目の不自由な方に郵送しています。グループの立ち上げ以来33年が経過し、利用者は30人弱、メンバーは10人程のこじんまりした関係なので、お互いの親睦や交流を図りながら、要望に応じて広報以外のものを音訳する等、身近な存在の活動を続けています。昨年来、市や図書館の助成を得て、利用者の要望に応えるべく、カセットテープからCDへの移行を急ピッチで進めています。軌道に乗るにはまだ時間が必要ですが、耳から地域情報を伝えることが出来る様学習に励んでいる



ところです。また、利用者の拡大やメンバーを増やす為の広報活動にも力を入れ、活動の充実を図っています。

（代表 柳原 秀子）

【ふくちゃんの会（袋井市）】

ふくちゃんの会は、袋井図書館分室の開館に合わせて発足され、10年にわたり、図書館と連携を取りながら、読み聞かせの活動を続けてきました。

毎月図書館分室で、乳幼児とその保護者、3歳から低学年向けのおはなし会をひらいています。ありがたいことに参加者も年々増えています。また、おはなし会で読む本を事前に持ち寄り、読み合いながら本の選書や読み方などについての勉強会を開いています。

メンバー全員絵本が大好きです。これからも地域の子どもたちに心の栄養となる本を選び、読み聞かせてあげることによって絵本やおはなしの楽しさを直接伝え、子どもたちに本と読書が大好きになってもらえたらと願って活動していきます。（代表 白井 清子）



【火ようおはなし会（長泉町）】

火ようおはなし会は長泉町民図書館の児童室で、毎月第2火曜日、AM10:30～11:00の30分間、未就園児とその親御さんを対象に読み聞かせを行っています。平成8年に発足し、メンバーは入れ替わりながら現在8名。「子どもたちと一緒に私たちも楽しみましょう」を合言葉に活動しています。30分のプログラムの最後は順番に担当して、パネルシアターやエプロンシアターなどに挑戦し、夏休み&クリスマスには少し大きめの



作品を使っています。一昨年から図書館から飛び出し、地域での活動にも取り組み始めました。子どもたちのキラキラした目と笑い声から『元気パワー』をもらいながら、これからも頑張って活動して行きたいと思えます☆

（代表 稲葉 優子）

講演会報告 『わたしを生きる、あなたを生きる。』

平成24年2月19日(日)、静岡県総合社会福祉会館(シズウェル)において、和合亮一氏による講演会が行われました。

和合氏は福島県在住の詩人で、福島県内の勤務先の高校で3.11の東日本大震災に遭遇しました。その後Twitter(ツイッター)で震災についての多くの詩を発表し続けています。

講演では、震災直後の被災地の状況、家族を避難先へ送り出した後の孤独感、そのような中で「20年間書いてきた詩を生きてきた証として残そう」と思いツイッター上で詩を書き始めたことなど、その時の様子が目に浮かぶかのように分かりやすい言葉でお話くださいました。5分に1回のペースで襲ってくる余震の中、詩を書くことで「言葉」を思い出し、言葉に向き合うことで何か未来が見えるように思えたということでした。

被災者へ聞き取りをしながら、詩を綴り続けている和合氏。今後何十年も抱えていかなければならない「鈍い痛み」に答えを見出すのは難しいかもしれないけれど、何かを宿す必要はあると語ってくださいました。随所に織り込まれた朗読に固い決意と故郷への愛を強く感じた講演会でした。



静岡県子ども読書 フェスティバル報告

1. ワークショップ 手作り絵本教室

平成23年7月31日(日)と8月7日(日)、県立中央図書館をお借りして、世界で1冊だけの自分の絵本作りをしました。また、レクリエーションでは中田講師のもと、折り紙こま作りやはさみで少し切り込みを入れるだけでいろいろな動物ができる工作など、とても楽しい体験をしました。



2. 講演会 講師 肥田美代子氏

11月26日(土)静岡市清水文化センターにおいて講演会を開催。国政の中での様々な読書活動等のお話を伺った後、当県での現状や問題点等を出し合い、大変積極的な意見交換会が行われました。また、県行政との関わり方や、当会の方向性なども考えさせられた貴重な研修会でした。

静岡県読書推進運動協議会推薦図書

☆☆☆シニア世代向け☆☆☆

- 『老年の品格』 三浦朱門／著 (海竜社 2010.12)
- 『大人の流儀』 伊集院静／著 (講談社 2011.3)
- 『悩むことはない』 金子兜太／著 (文藝春秋 2011.4)
- 『わたしの開高健』 細川布久子／著 (創美社 2011.5)
- 『日本人の誇り』 藤原正彦／著 (文藝春秋 2011.4)
- 『老いの才覚』 曾野綾子／著 (ベストセラーズ 2010.9)
- 『3.11後の世界の心の守り方』 小池龍之介／著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン 2011.8)

☆☆☆ヤング世代向け☆☆☆

- 『心を整える。勝利をたくり寄せるための56の習慣』 長谷部 誠／著 (幻冬舎 2011.3)
- 『わたしはあかねこ』 サトシン 作／西村敏雄 絵 (文溪堂 2011.8)
- 『日本男児』 長友 佑都／著 (ポプラ社 2011.5)
- 『ロボット創造学入門』 広瀬 茂男／著 (岩波書店 2011.6)
- 『聖夜—School and Music』 佐藤多佳子／著 (文藝春秋 2010.12)